

結核と社会保障～ SPARK から見る世界の動き

結核予防会結核研究所

臨床・疫学部主任 河津 里沙

2018年5月30日～31日の2日間にわたりスウェーデンの首都ストックホルムにおいて、世界保健機関、スウェーデンのカロリンスカ研究所及びイギリスのロンドン大学熱帯医学公衆衛生院の共催で第二回目 SPARK Network 会議が開催された。結核研究所は今年よりメンバーとなり、著者が代表で参加したので、これを機に SPARK の活動内容と結核における社会保障政策の役割に関する世界の動きを紹介したい。

SPARK 結成まで

SPARK とは Social Protection Action Research and Knowledge の頭字語で、結核をはじめとする様々な健康課題と社会保障の関連性に関するエビデンスの構築と情報発信と目指す国際的ネットワークである。事務局はカロリンスカ研究所とロンドン大学熱帯医学公衆衛生院が務め、2016年12月に第一回会議が開催された。第一回会議の報告書は既に世界保健機関のHPで公表されている。

先ず SPARKS Network 結成に至るまでの背景を少し説明したい。貧困が健康の最大のリスク要因であることは言うまでもない。世界中で健康の社会決定要因に関する研究が展開されてきた一方で、保健や健康の分野以外での政策、すなわち様々な社会保障政策が健康に与える影響に関してはエビデンスが乏しい。またユニバーサルヘルスカバレッジ（UHC）は持続可能な開発目標（SDGs）のゴールの一つであり、多くの国が保健システム強化などを通してUHC達成に取り組んでいるが、健康の社会決定要因に対して具体的にどのような介入が必要なのか、そして有用なのか、は明確にされていないのが現状である。例えば現金給付プログラムなどはブラジルのボルサ・ファミリア計画をはじめとし、様々な国で展開されているが、健康への影響に関する報告は必ずしも一致していない。このような背景のもと、世界保健総会は2014年5月に「世界結核終息戦略」（End TB Strategy）を承認した。その一環として結核による家計破綻をなくすこと、そのための社会保障政策の充実の必要性が指摘され、同年11月には世界保健機関、カロリンスカ研究所とスウェーデン政府が結核の研究・ニーズに関する会合を開い

たのである。その会合の成果の一つが、「世界結核終息戦略」の柱の一つであるリサーチに関するグローバル・アクション・フレームワークで、国際的・学際的リサーチネットワークの設立を呼びかけた。SPARK はこれに対する答えとして結成されたのである。

SPARK の活動内容

SPARK の名称に「結核」はないものの、社会保障と健康課題の関連性について、まずは結核に主眼を置いている。これは結核が未だに世界の最重要健康課題の一つであるとともに、典型的な「社会の病」であることが理由として挙げられているが、将来的には結核と社会保障の介入モデルを基にして他の疾患に展開することも期待されている。

SPARK の主な活動としては1) 結核をはじめとする様々な健康課題と社会保障の関係性に関するエビデンスの構築と、この分野におけるアクションリサーチの方法論の確立、2) 既存の資源を有効活用し、様々な研究を実施・支援するとともに、新たに蓄積したエビデンスを基に新たな研究プラットフォームの構築、3) 情報発信と政策転換、が挙げられている。これらの活動理念に基づき、現在 SPARK のメンバー機関によって様々な研究活動が展開されているが、第二回会議の初日にはこれらのうち幾つかの結果の共有がされた。2日目には参加者は4つのグループに分けられ、上記の活動内容に関する課題が与えられた。参加者はワークショップ形式でそれぞれの課題に対する「解決策」を提案することが課された。最後に SPARK の今後の展開について議論がされ、閉会となった。

結核と社会保障

SPARK は主に低・中所得国におけるアクションリサーチに重点を置いているが、日本を含む医療保険制度が確立されている高所得国においても、結核によって経済的負担を強いられる人々が少なからずいる。End TB Strategy の基本精神は「誰一人取り残さない」ことであり、貧困・格差は結核対策に関わる全ての人間が対峙すべき問題であろう。SPARK はこの問題に科学的に取り組む土台となる可能性を秘めており、日本が貢献できる部分は大きいと考える。☺